学校番号	117

令和３年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「精選　古典」（大修館書店）						
副教材等	「やさしくくわしい古典文法」（尚文出版）・「ビジュアルカラー国語便覧」（大修館書店） 「入試対策ベストセレクション古文単語 325」（尚文出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・教科書、ノート、古文単語帳、古典文法書を必ず持ってきてください。
・ノートには授業で指示された内容や板書を書き写すだけでなく、メモを積極的に取りましょう。
・予習として必ず本文を音読し、担当の先生から指示があれば本文を丁寧に書き写してください。授業の後には内容を振り返って復習しましょう。
・国語便覧はカラーの図絵が豊富で作品の概要を知るのに最適な教材です。授業で使用する以外の場面でも積極的に活用してください。
・古文と漢文の作品に親しむとともに、正しく心情等を理解するために語彙力や文法の知識をしっかりと身につけてください。
・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。
・語彙を増やし、文法を理解していく過程でも、多種多様な古典作品の登場人物や作者の心情を考える際にも、また、それぞれの作品の背景にある政情や文化を理解していく際にも、共通して感じてもらいたいのは現代の日本に生きる私たちに通じるところが多いということです。テクノロジーはまさに「秒進分歩」で進化し、グローバル化がますます進む現代社会だからこそ日本文化のルーツを探り、理解し、味わってほしいと思います。漢文学習では、その日本文化の醸成に多大な影響を与えた中国文化について、漢文読解を通じて理解を深めてみてください。そして、現代日本の文化や他国の文化と比較してみましょう。このような「温故知新」の学びの中で、新たな発見があるかもしれません。

２　学習の到達目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに，ものの見方，感じ方，考え方を広くし，古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む力を進んで高めるとともに，古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する力が身についている。
評価方法	・行動の観察（学習内容への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート等）	・行動の観察（学習内容における発言内容、態度） ・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート等） ・定期考査	・行動の観察（学習内容における発言内容） ・記述の確認（ノート、ワークシート等） ・小テスト（単語・文法） ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1	説話	古文の基本的な読解方法を確認しながら、登場人物の性質や、話の流れを把握する。 説話ならではの展開や内容のおもしろさを味わう。	○			◎	○	a:作者や登場人物の機知に富んだ対応、発言の面白みを理解しようとしている。 d:文章を通して、登場人物の行動の意味を読み取っている。 e:基本的な助動詞の用法について理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査
	日記	中古の日記を読み、作者の境遇、物の見方、感じ方を追体験する。 作者の生活や考え方を読み取るとともに、平安女流日記文学の特徴を理解する。	○			◎	○	a:作者の生活や考え方を読み取るとともに、平安女流日記文学の特徴を理解しようとしている。 d:作者の立場を理解し、その心情を読み取っている。 e:形のうえで紛らわしい語を文法的に識別できている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査
	漢詩	主に唐代の詩文について、繰り返し音読し漢文の調子を習熟する。 漢詩の形式や表現について理解する。	○			◎	○	a:漢詩に親しみ、理解しようとしている。詩句を音読し、漢詩のリズムを味わおうとしている。 d:詩に描かれた情景や作者の心情を読み味わっている。 e:近体詩の形式について理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査
2	随筆	中古・中世の随筆を読み、自然や人間に対する古人の感性に注目する。 『枕草子』については、中宮定子のサロンを取り巻く豊かな文化と人間関係や当時の宮廷生活について理解する。	○			◎	○	a:内容を踏まえて筆者の考え方や当時の宮廷生活、筆者を取り巻く人間関係を理解しようとしている。 d:助動詞や敬語の用法を適切に理解した上で、筆者の美意識や機知を読み取っている。 e:助動詞や敬語の用法について適切に理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査

	史記	『史記』のうち、よく知られた場面について、訓読し、できごとのおおよそを読み取る。 歴史上の人物の行動や心情について考える。	○			◎	○	a:著名な逸話について興味を持ち、内容を深く知ろうとしている。 d:話の展開を理解するとともに、登場人物の心情を読み取っている。 e:漢文に頻出する語彙の読みと意味や句法を確認しつつ訓読し、現代語訳することができる。	a:行動の観察及び記述の点検 d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査
3	作り物語	『源氏物語』などの物語の世界に親しみ、文章を味わう。 登場人物の心情を状況や行動に即して読み取るとともに、『源氏物語』への理解を深め、興味関心を高める。	○			◎	○	a: 物語の内容を理解するとともに、『源氏物語』についてより深く知ろうとしている。 d:登場人物の相互の関係、帝をめぐる人々の心情と言動、帝と桐壺更衣との交情、光源氏の誕生等について読み取っている。 e:古語辞典を活用しながら古語について理解し、これまでに学習した助動詞や敬語の用法等を確認しながら、適切に現代語訳している。	a:行動の観察及び記述の点検 d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。